

2025年度

学校教育診断 アンケート結果

2025年度 学校教育診断アンケート 回答率

生徒			
	中学	高校	全体
回答数	66	926	992
在籍数	76	1010	1086
割合	87%	92%	91%

保護者	
	全体
回答数	778
在籍数	1086
割合	72%

教員	
	全体
回答数	61
在籍数	65
割合	94%

2025年度 学校教育自己診断アンケート 質問項目

保護者用			生徒用			教職員用		
1	1	お子様は、自習室や家庭内などで積極的に学習に取り組んでいる	1	1	自分自身は、自習室や家庭内などで積極的に学習に取り組んでいる	1	1	本校は、生徒の学力向上に向けて組織的に取り組んでいる
	2	本校は、iPadやClassiなどのICTツールを有効的に活用している		2	本校は、iPadやClassiなどのICTツールを有効的に活用している		2	本校は、iPadやClassiなどのICTツールを有効的に活用している
	3	本校は、協働的・探究的な学びを取り入れた授業や活動が充実している		3	本校は、協働的・探究的な学びを取り入れた授業や活動が充実している		3	本校は、協働的・探究的な学びを取り入れた授業や活動が充実している
2	4	教員は、保護者の相談に適切に対応してくれる	2	4	教員は、生徒が相談したとき適切に応じてくれている	2	4	教員は、生徒との面談や保護者からの相談に適切に応じている
	5	Classi・メール配信・ホームページなどで、学校の情報は適切に伝えられている		5	Classi・メール配信・ホームページなどで、学校の情報は適切に伝えられている		5	Classi・メール配信・ホームページなどで、学校の情報は適切に伝えられている
	6	本校は、授業参観など保護者が来校する機会をよく設けている		6	本校の生活指導について、教員の指導は適切である		6	本校は、体罰やセクシャルハラスメント防止を意識した生徒指導をおこなっている
3	7	入学後、お子様の自主性が向上したと感じられる	3	7	本校に入学して、自主性が向上した	3	7	本校の教育活動を通じて、生徒の自主性が向上している
	8	本校は、情報モラル教育を十分に行っている		8	本校は、情報モラル教育を十分に行っている		8	本校は、情報モラル教育を十分に行っている
	9	入学後、お子様の礼儀やマナーなどの社会性が向上したと感じられる		9	本校に入学して、礼儀やマナーなどの社会性が向上した		9	本校は、進路に関する情報をきめ細かく提供している
4	10	本校は、進路に関する情報をきめ細かく提供している	4	10	本校は、進路に関する情報をきめ細かく提供している	4	10	本校は、生徒の、自分の意見や考えを表現する力を向上させている
	11	入学後、お子様の、自分の意見や考えを表現する力が向上した		11	入学後、自分の意見や考えを表現する力が向上した		11	本校は、生徒に進路や生き方を考えさせる機会をよく設けている
	12	入学後、お子様が自身の進路や生き方を考える機会が増えた		12	入学後、自分の進路や生き方を考える機会が増えた		12	生徒は、部活動・生徒会・委員会活動に積極的に取り組んでいる
5	13	お子様は、部活動・生徒会・委員会活動に積極的に取り組んでいる	5	13	自分自身は、部活動・生徒会・委員会活動に積極的に取り組んでいる	5	13	生徒は、本校の学校行事に満足している
	14	お子様は、本校の学校行事に満足している		14	本校の学校行事に満足している		14	本校は、生徒の読書への興味や意欲を高める活動を推進している
	15	入学後、お子様が読書をする機会が増えたと感じられる		15	入学後、読書をする機会が増えた		15	本校は、いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる
6	16	本校は、いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる	6	16	本校は、いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる	6	16	本校は、生徒の事件事故防止や健康安全について十分配慮している
	17	本校は、生徒の事件事故防止や健康安全について十分配慮している		17	本校は、生徒の事件事故防止や健康安全について十分配慮している		17	本校は、校内の清掃指導、美化活動に十分取り組んでいる
	18	本校は、校内の清掃指導、美化活動に十分取り組んでいる		18	本校は、校内の清掃指導、美化活動に十分取り組んでいる		18	本校の施設・設備面は、生徒が学習する環境として充実している
7	19	本校の施設・設備面は、お子様が学習する環境として充実している	7	19	本校の施設・設備面は、自身が学習する環境として充実している	7	19	本校は、生徒の内面的成長につながる教育活動をおこなっている
	20	本校の教育活動を通じて、お子様が内面的に成長したと感じられる		20	本校に入学して、自身が内面的に成長したと感じられる		20	本校の職場環境に満足している
	21			21	本校に入学してよかったと思う		21	部長・主任職は各部署をよくまとめ、指導的役割を果たしている
他	22		他	22		他	22	管理職は、現場教員の声に耳を傾けている
	23			23			23	管理職は、学校目標達成に向け、リーダーシップを発揮している
	24			24			24	教職員は、学校運営に支障がないよう自己責任を意識して行動している

《 2023～2025年度の重点目標 》

…主体的に学ぶ意欲・態度の伸長と確かな学力の育成

…情報モラル教育の推進と更なるICT機器活用力の向上

…協働的・探究的な学びの充実と自律的な行動力の育成

2025年度 学校教育診断(生徒用) アンケート結果(中学)

設問 番号	①よくあてはまる ②ややあてはまる ③あまりあてはまらない ④あてはまらない	実 数				割 合				プラス	マイナス
		①	②	③	④	①	②	③	④		
1	自分自身は、自習室や家庭内などで積極的に学習に取り組んでいる	12	29	18	7	18%	44%	27%	11%	62%	38%
2	本校は、iPadやClassiなどのICTツールを有効的に活用している	39	22	3	2	59%	33%	5%	3%	92%	8%
3	本校は、協働的・探究的な学びを取り入れた授業や活動が充実している	30	32	2	2	45%	48%	3%	3%	94%	6%
4	教員は、生徒が相談したとき適切に応じてくれている	28	30	5	3	42%	45%	8%	5%	88%	12%
5	Classi・メール配信・ホームページなどで、学校の情報は適切に伝えられている	31	30	3	2	47%	45%	5%	3%	92%	8%
6	本校の生活指導について、教員の指導は適切である	32	23	8	3	48%	35%	12%	5%	83%	17%
7	本校に入学して、自主性が向上した	25	34	3	4	38%	52%	5%	6%	89%	11%
8	本校は、情報モラル教育を十分に行っている	28	28	8	2	42%	42%	12%	3%	85%	15%
9	本校に入学して、礼儀やマナーなどの社会性が向上した	28	35	1	2	42%	53%	2%	3%	95%	5%
10	本校は、進路に関する情報をきめ細かく提供している	27	32	5	2	41%	48%	8%	3%	89%	11%
11	入学後、自分の意見や考えを表現する力が向上した	27	33	3	3	41%	50%	5%	5%	91%	9%
12	入学後、自分の進路や生き方を考える機会が増えた	29	28	5	4	44%	42%	8%	6%	86%	14%
13	自分自身は、部活動・生徒会・委員会活動に積極的に取り組んでいる	26	17	12	11	39%	26%	18%	17%	65%	35%
14	本校の学校行事に満足している	35	26	3	2	53%	39%	5%	3%	92%	8%
15	入学後、読書をする機会が増えた	23	15	15	13	35%	23%	23%	20%	58%	42%
16	本校は、いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる	32	25	6	3	48%	38%	9%	5%	86%	14%
17	本校は、生徒の事件事故防止や健康安全について十分配慮している	26	33	3	3	40%	51%	5%	5%	91%	9%
18	本校は、校内の清掃指導、美化活動に十分取り組んでいる	36	26	2	2	55%	39%	3%	3%	94%	6%
19	本校の施設・設備面は、自身が学習する環境として充実している	37	22	5	2	56%	33%	8%	3%	89%	11%
20	本校に入学して、自身が内面的に成長したと感じられる	29	26	6	5	44%	39%	9%	8%	83%	17%
21	本校に入学してよかったと思う	41	20	3	2	62%	30%	5%	3%	92%	8%

2025年度 学校教育診断(生徒用) アンケート結果(高校)

設問 番号	①よくあてはまる ②ややあてはまる ③あまりあてはまらない ④あてはまらない	実 数				割 合				プラス	マイナス
		①	②	③	④	①	②	③	④		
1	自分自身は、自習室や家庭内などで積極的に学習に取り組んでいる	219	406	210	91	24%	44%	23%	10%	67%	33%
2	本校は、iPadやClassiなどのICTツールを有効的に活用している	529	323	51	22	57%	35%	6%	2%	92%	8%
3	本校は、協働的・探究的な学びを取り入れた授業や活動が充実している	394	454	65	13	43%	49%	7%	1%	92%	8%
4	教員は、生徒が相談したとき適切に応じてくれている	518	354	47	6	56%	38%	5%	1%	94%	6%
5	Classi・メール配信・ホームページなどで、学校の情報は適切に伝えられている	499	362	54	11	54%	39%	6%	1%	93%	7%
6	本校の生活指導について、教員の指導は適切である	388	428	84	26	42%	46%	9%	3%	88%	12%
7	本校に入学して、自主性が向上した	289	421	157	57	31%	46%	17%	6%	77%	23%
8	本校は、情報モラル教育を十分に行っている	320	480	106	19	35%	52%	11%	2%	86%	14%
9	本校に入学して、礼儀やマナーなどの社会性が向上した	341	415	130	39	37%	45%	14%	4%	82%	18%
10	本校は、進路に関する情報をきめ細かく提供している	523	354	41	7	57%	38%	4%	1%	95%	5%
11	入学後、自分の意見や考えを表現する力が向上した	331	430	135	28	36%	47%	15%	3%	82%	18%
12	入学後、自分の進路や生き方を考える機会が増えた	564	305	43	13	61%	33%	5%	1%	94%	6%
13	自分自身は、部活動・生徒会・委員会活動に積極的に取り組んでいる	371	274	156	124	40%	30%	17%	13%	70%	30%
14	本校の学校行事に満足している	352	408	113	52	38%	44%	12%	6%	82%	18%
15	入学後、読書をする機会が増えた	78	136	285	426	8%	15%	31%	46%	23%	77%
16	本校は、いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる	375	445	79	26	41%	48%	9%	3%	89%	11%
17	本校は、生徒の事件事故防止や健康安全について十分配慮している	412	438	60	14	45%	47%	6%	2%	92%	8%
18	本校は、校内の清掃指導、美化活動に十分取り組んでいる	560	316	40	8	61%	34%	4%	1%	95%	5%
19	本校の施設・設備面は、自身が学習する環境として充実している	531	345	36	13	57%	37%	4%	1%	95%	5%
20	本校に入学して、自身が内面的に成長したと感じられる	375	420	99	31	41%	45%	11%	3%	86%	14%
21	本校に入学してよかったと思う	432	372	72	48	47%	40%	8%	5%	87%	13%

2025年度 学校教育診断(生徒用) アンケート結果(学年別)

設問 番号	①よくあてはまる ②ややあてはまる ③あまりあてはまらない ④あてはまらない	中学		高1		高2		高3		高校	
		プラス	マイナス	プラス	マイナス	プラス	マイナス	プラス	マイナス	プラス	マイナス
1	自分自身は、自習室や家庭内などで積極的に学習に取り組んでいる	62%	38%	60%	40%	63%	37%	82%	18%	67%	33%
2	本校は、iPadやClassiなどのICTツールを有効的に活用している	92%	8%	94%	6%	92%	8%	90%	10%	92%	8%
3	本校は、協働的・探究的な学びを取り入れた授業や活動が充実している	94%	6%	93%	7%	90%	10%	92%	8%	92%	8%
4	教員は、生徒が相談したとき適切に応じてくれている	88%	12%	93%	7%	94%	6%	97%	3%	94%	6%
5	Classi・メール配信・ホームページなどで、学校の情報は適切に伝えられている	92%	8%	91%	9%	94%	6%	94%	6%	93%	7%
6	本校の生活指導について、教員の指導は適切である	83%	17%	89%	11%	86%	14%	89%	11%	88%	12%
7	本校に入学して、自主性が向上した	89%	11%	75%	25%	76%	24%	80%	20%	77%	23%
8	本校は、情報モラル教育を十分に行っている	85%	15%	88%	13%	85%	15%	87%	13%	86%	14%
9	本校に入学して、礼儀やマナーなどの社会性が向上した	95%	5%	83%	17%	80%	20%	82%	18%	82%	18%
10	本校は、進路に関する情報をきめ細かく提供している	89%	11%	94%	6%	93%	7%	97%	3%	95%	5%
11	入学後、自分の意見や考えを表現する力が向上した	91%	9%	79%	21%	83%	18%	86%	14%	82%	18%
12	入学後、自分の進路や生き方を考える機会が増えた	86%	14%	95%	5%	91%	9%	96%	4%	94%	6%
13	自分自身は、部活動・生徒会・委員会活動に積極的に取り組んでいる	65%	35%	76%	24%	66%	34%	66%	34%	70%	30%
14	本校の学校行事に満足している	92%	8%	80%	20%	83%	17%	84%	16%	82%	18%
15	入学後、読書をする機会が増えた	58%	42%	21%	79%	20%	80%	30%	70%	23%	77%
16	本校は、いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる	86%	14%	87%	13%	89%	11%	90%	10%	89%	11%
17	本校は、生徒の事件事故防止や健康安全について十分配慮している	91%	9%	92%	8%	91%	9%	93%	7%	92%	8%
18	本校は、校内の清掃指導、美化活動に十分取り組んでいる	94%	6%	95%	5%	94%	6%	96%	4%	95%	5%
19	本校の施設・設備面は、自身が学習する環境として充実している	89%	11%	96%	4%	94%	6%	94%	6%	95%	5%
20	本校に入学して、自身が内面的に成長したと感じられる	83%	17%	84%	16%	85%	15%	89%	11%	86%	14%
21	本校に入学してよかったと思う	92%	8%	86%	14%	85%	15%	90%	10%	87%	13%

2025年度 学校教育診断(保護者用) アンケート結果(全体)

設問 番号	①よくあてはまる ②ややあてはまる ③あまりあてはまらない ④あてはまらない	実 数				割 合				プラス	マイナス
		①	②	③	④	①	②	③	④		
1	お子様は、自習室や家庭内などで積極的に学習に取り組んでいる	220	313	178	66	28%	40%	23%	8%	69%	31%
2	本校は、iPadやClassiなどのICTツールを有効的に活用している	484	252	32	9	62%	32%	4%	1%	95%	5%
3	本校は、協働的・探究的な学びを取り入れた授業や活動が充実している	279	433	56	9	36%	56%	7%	1%	92%	8%
4	教員は、保護者の相談に適切に対応してくれる	367	339	61	7	47%	44%	8%	1%	91%	9%
5	Classi・メール配信・ホームページなどで、学校の情報は適切に伝えられている	497	252	25	4	64%	32%	3%	1%	96%	4%
6	本校は、授業参観など保護者が来校する機会をよく設けている	447	293	34	4	57%	38%	4%	1%	95%	5%
7	入学後、お子様の自主性が向上したと感じられる	248	352	140	38	32%	45%	18%	5%	77%	23%
8	本校は、情報モラル教育を十分に行っている	262	431	68	9	34%	56%	9%	1%	90%	10%
9	入学後、お子様の礼儀やマナーなどの社会性が向上したと感じられる	183	410	160	23	24%	53%	21%	3%	76%	24%
10	本校は、進路に関する情報をきめ細かく提供している	370	352	48	8	48%	45%	6%	1%	93%	7%
11	入学後、お子様の、自分の意見や考えを表現する力が向上した	194	394	167	22	25%	51%	21%	3%	76%	24%
12	入学後、お子様が自身の進路や生き方を考える機会が増えた	291	386	84	16	37%	50%	11%	2%	87%	13%
13	お子様は、部活動・生徒会・委員会活動に積極的に取り組んでいる	278	262	151	85	36%	34%	19%	11%	70%	30%
14	お子様は、本校の学校行事に満足している	287	401	65	23	37%	52%	8%	3%	89%	11%
15	入学後、お子様が読書をする機会が増えたと感じられる	30	129	359	259	4%	17%	46%	33%	20%	80%
16	本校は、いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる	218	450	83	16	28%	59%	11%	2%	87%	13%
17	本校は、生徒の事件事故防止や健康安全について十分配慮している	287	417	57	11	37%	54%	7%	1%	91%	9%
18	本校は、校内の清掃指導、美化活動に十分取り組んでいる	434	313	22	4	56%	40%	3%	1%	97%	3%
19	本校の施設・設備面は、お子様が学習する環境として充実している	457	280	35	6	59%	36%	4%	1%	95%	5%
20	本校の教育活動を通じて、お子様が内面的に成長したと感じられる	258	403	97	19	33%	52%	12%	2%	85%	15%
21	お子様を、本校に入学させてよかったと思う	475	254	40	9	61%	33%	5%	1%	94%	6%

2025年度 学校教育診断(教員用) アンケート結果

設問 番号	①よくあてはまる ②ややあてはまる ③あまりあてはまらない ④あてはまらない	実 数				割 合				プラス	マイナス
		①	②	③	④	①	②	③	④		
1	本校は、生徒の学力向上に向けて組織的に取り組んでいる	44	15	2	0	72%	25%	3%	0%	97%	3%
2	本校は、iPadやClassiなどのICTツールを有効的に活用している	51	8	2	0	84%	13%	3%	0%	97%	3%
3	本校は、協働的・探究的な学びを取り入れた授業や活動が充実している	37	21	1	1	62%	35%	2%	2%	97%	3%
4	教員は、生徒との面談や保護者からの相談に適切に応じている	57	4	0	0	93%	7%	0%	0%	100%	0%
5	Classi・メール配信・ホームページなどで、学校の情報は適切に伝えられている	51	10	0	0	84%	16%	0%	0%	100%	0%
6	本校は、体罰やセクシャルハラスメント防止を意識した生徒指導をおこなっている	36	19	6	0	59%	31%	10%	0%	90%	10%
7	本校の教育活動を通じて、生徒の自主性が向上している	20	32	8	1	33%	52%	13%	2%	85%	15%
8	本校は、情報モラル教育を十分に行っている	19	25	15	2	31%	41%	25%	3%	72%	28%
9	本校は、進路に関する情報をきめ細かく提供している	56	3	2	0	92%	5%	3%	0%	97%	3%
10	本校は、生徒の、自分の意見や考えを表現する力を向上させている	37	21	3	0	61%	34%	5%	0%	95%	5%
11	本校は、生徒に進路や生き方を考えさせる機会をよく設けている	43	16	2	0	70%	26%	3%	0%	97%	3%
12	生徒は、部活動・生徒会・委員会活動に積極的に取り組んでいる	29	24	7	1	48%	39%	11%	2%	87%	13%
13	生徒は、本校の学校行事に満足している	39	17	5	0	64%	28%	8%	0%	92%	8%
14	本校は、生徒の読書への興味や意欲を高める活動を推進している	17	34	9	1	28%	56%	15%	2%	84%	16%
15	本校は、いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる	38	22	1	0	62%	36%	2%	0%	98%	2%
16	本校は、生徒の事件事故防止や健康安全について十分配慮している	41	18	2	0	67%	30%	3%	0%	97%	3%
17	本校は、校内の清掃指導、美化活動に十分取り組んでいる	30	24	6	1	49%	39%	10%	2%	89%	11%
18	本校の施設・設備面は、生徒が学習する環境として充実している	28	22	9	2	46%	36%	15%	3%	82%	18%
19	本校は、生徒の内面的成長につながる教育活動をおこなっている	35	22	4	0	57%	36%	7%	0%	93%	7%
20	本校の職場環境に満足している	33	20	7	1	54%	33%	11%	2%	87%	13%
21	部長・主任職は各部署をよくまとめ、指導的役割を果たしている	41	15	4	1	67%	25%	7%	2%	92%	8%
22	管理職は、現場教員の声に耳を傾けている	28	21	8	4	46%	34%	13%	7%	80%	20%
23	管理職は、学校目標達成に向け、リーダーシップを発揮している	28	25	6	2	46%	41%	10%	3%	87%	13%
24	教職員は、学校運営に支障がないよう自己責任を意識して行動している	39	19	3	0	64%	31%	5%	0%	95%	5%

大阪青凌中学校高等学校
2025 年度 学校教育診断 結果報告

A 本年度の教育活動（主要行事の実施概要）

①体育祭

日程：2025 年 5 月 23 日（金）実施

会場：Asue アリーナ大阪（大阪中央体育館）

方針：「繋がる体育祭」…生徒の縦と横のつながり、過去から未来へのつながり、教員間・教員と生徒のつながりを意識する

目標：①積極的に取り組み、主体性・協調性を身に付け、学校生活に前向きな生徒を育成する

②中高・学年の枠を越えて団結し、一体となって魅力ある行事を構築する

③実行委員が企画し、リーダーシップを身に付け、行事を運営する

スローガン：「RISE AS ONE ～みんなの輝き、打ち上げろ！～」

生徒満足度（肯定的評価）：中学→97.1% 高 1→97.4% 高 2→98.9% 高 3→99.5%

実行委員満足度（肯定的評価）→88.2 %

保護者来場者数：1093 名

※今年度の実行委員は、前年度の 3 学期に応募し 3 月から活動を開始した中心メンバー 10 名と、委員 54 名の計 64 名で構成された。昨年度同様に実行委員が中心となってプログラムを進行し、大型ビジョンの活用により競技の臨場感を観客に伝えた。特筆すべき点として、今年度より演舞種目において「演舞中の招集をせず観覧席で全員が観戦する」形を導入した。これにより、拍手や手拍子が自然と沸き起こり、会場全体の一体感がより一層高まった。生徒アンケートでも演舞種目が人気の上位を占めており、双方が達成感や喜びを共有できる時間となった。

②青凌祭

日程：2025 年 9 月 5 日（金）・9 月 6 日（土）

会場：高槻城公園芸術文化劇場（1 日目）、本校（2 日目）

目標：①生徒一人ひとりが主体的に考え、行動し、発表が充実したものとなるよう努めることで、達成感と自己肯定感を得る。

②個の力を組み合わせ、集団（クラス・部活動等）として発表を行うことにより、協働性を育み、またその意義を実感する。

③実行委員が中心となって行事を創り上げることを通して、生徒たちがリーダーシップを育む場とする。

スローガン：「青春謳歌～青凌祭はね、楽しまない～」

生徒満足度（肯定的評価）：1 日目 99.5%、2 日目 99.3%

保護者来場者数：1 日目 375 名（発表クラスの保護者のみ）、2 日目 1258 名

※2025 年度青凌祭は、昨年度の反省点や改善点を反映させた計画のもと、大きな問題なく終えることができた。生徒満足度は両日ともに肯定的評価が 99%を超える極めて高い結果となり、昨年度と同程度の高評価を維持している。

今年度は、質の向上と自律的な行動を促すため、以下の取り組みを重点的に実施した。

○成長の可視化

SHR を活用した目標設定とポートフォリオによる振り返りを行い、生徒が自身の成長を見つめる機会を設けた。

○運営の効率化と情報共有

Classi のグループ活用やリフレッシュスペースでの情報一元化により、準備プロセスの透明性を高め、提出物資料の簡略化を図った。

○表現の質的向上

舞台発表に向けた脚本講習会や特別活動室による内容確認を段階的に行い、表現の質の向上に努めた。

○活動の多様化

2 日目の有志発表を活性化させ個性の発揮を促したほか、高 3 の食品販売も校内設備の範囲内で適切に運営した。

○新しい試み

作業効率化と負担軽減を目的に「キャッシュレス決済」を導入した。生徒の利用率は 44%（329 名）に達し、次年度以降の本格運用に向けた検討材料を得ることができた。

③修学旅行

【高校 2 年生】

日程：国内 2025 年 10 月 16 日（木）～20 日（月）4 泊 5 日

海外 2025 年 10 月 14 日（火）～20 日（月）6 泊 7 日

行先：北海道・沖縄・オーストラリア（選択制）

目標：①豊かな自然に触れながら、働く人との交流をすることで、仕事に対する見識を深め、将来像を具体化する

②多くの人々との交流を通して、コミュニケーション能力を高める

③団体行動のルールを遵守し、主体性、協調性を養う

業者：JTB

北海道方面

行程：ルスツ～小樽～札幌

生徒：195 名

生徒満足度（肯定的評価）：96.3%

沖縄方面

行程：那覇～西表島～石垣島

生徒：89 名

生徒満足度（肯定的評価）：97.7%

オーストラリア方面

行程：メルボルン～フィリップ島

生徒：63 名

生徒満足度（肯定的評価）：98.4%

※3 方面ともに満足度が非常に高く、極めて充実した研修となった。各方面での「キャリア体験」や「社会人交流」では、生徒たちが現地のプロフェッショナルから直接話を聞き、自身の進路や働くことの意義を真剣に考える姿が随所に見られた。事前学習から修学旅行委員が中心となり、目標設定やルールの策定、しおりの作成を行った。現地でも、委員が点呼や挨拶、マナーの啓発を自主的に行うなど、リーダーシップの発揮が目立った。また、オーストラリアでの学校交流や、各方面でのアクティビティを通じ、異文化への理解や仲間との絆を深めることができ、校訓である「自主自律」を具現化する貴重な機会となった。

【中学 3 年生】

日程：2025 年 10 月 15 日（水）～22 日（水）7 泊 8 日

行先：オーストラリア ブリスベン～ゴールドコースト方面

目標：①校訓「自主自律」の精神のもと、国際交流・異文化体験を通じて自己を成長させる

②まちがいを恐れず、英語を積極的に使い、言葉の壁を乗り越えた心のコミュニケーションをはかる

※中学部の海外研修は、入学時より積み上げてきたコミュニケーション能力とプレゼンテーション力の集大成として位置づけている行事である。今年度も、現地校での研修やホームステイを通じて、生徒たちは自らの意思を伝え、相手を理解しようとする「コミュニケーションの核」を実体験から学ぶことができた。現地校での研修では、現地のバディとともに英語での授業に参加し、積極的に発言を試みる姿が見られた。また、日本文化を紹介するプレゼンテーションでは、練習の成果を存分に発揮し、現地生徒との交流を深めるきっかけとなった。ホームステイでは、日本語が通じない環境の中、ホストファミリーとの生活を通じて、異文化を受け入れる柔軟性と自立心を養った。思いが伝わらずもどかしい思いをする場面もあったが、それらすべてが糧となり、最終日には自信に満ちた表情で帰路につく姿が印象的であった。この 8 日間の経験は、生徒たちが将来、国際社会の中で自分らしく生きるための大きな自信となった。

B 本年度の重点目標

本年度の重点目標は、以下の 3 点である。なお、重点目標は 3 年間は固定し、年度ごとに目標への達成度をアンケートで確認する。本年は、3 年サイクルの 3 年目にあたる。アンケート対象者は、生徒・保護者・教員である。

- ①重点目標 1 主体的に学ぶ意欲・態度の伸長と確かな学力の育成
- ②重点目標 2 情報モラル教育の推進と更なる ICT 機器活用力の向上
- ③重点目標 3 協働的・探究的な学びの充実と自律的な行動力の育成

以下、それぞれについて、アンケート結果を検証する。

重点目標 1 主体的に学ぶ意欲・態度の伸長と確かな学力の育成

→本目標の達成状況については、まず「三人行事（体育祭・青凌祭・修学旅行）」および「各種行事・委員会・生徒会活動」における生徒の参画度や役割意識から、集団の中での主体性を検証する。加えて、今年度より導入した「サタ活」や、日々の時間を自ら管理する「MT（マネジメントタイム）」、感性を養う「読書活動」を通じた、個のセルフマネジメント能力および自主性の伸長についても分析・検証を行う。

【P：Plan】

評価指標

生徒対象	学校教育診断アンケート	設問番号 1・7・13
保護者対象	学校教育診断アンケート	設問番号 1・7・13
教職員対象	学校教育診断アンケート	設問番号 7・12

【D：Do】

取組状況

〔体育祭・青凌祭・修学旅行〕

三人行事の実施概要については、先述のとおりである。

〔生徒会・委員会活動〕

昨年度の活動をベースとしつつ、今年度は「地域社会との接点」を広げ、生徒が実社会の中で主体性を発揮する機会を重点的に設けた。生徒会（中高別、週 1 回）・各種委員会（月 1 回）・常任委員会（学期 1 回）を軸に、生徒自身の発案と地域連携を組み合わせた以下の活動を実践した。

（1）厚生美化委員による「竹林整備」と地域交流（10/8）

学校敷地内の竹林整備を実施。作業にあたっては、地域の方々に専門的な指導や助言を仰ぎながら進めた。生徒たちは地域の方との交流を通じて、適切な整備手法だけでなく、自然環境を維持する意義や知恵を学び、奉仕の精神と地域への帰属意識を深める貴重な機会となった。

（2）生活風紀委員による「安全登校マナーアップ週間」の実践（11/4～11/14）

「地域の方との結びつきを深めること」および「生徒自らの声かけによる登校マナーの再認識」を目的に、生活風紀委員 46 名が参加。学校前・踏切前・島本駅前・3 箇所に分かれ、登校中の生徒や地域の方々へ挨拶運動を展開した。特に 11 月 7 日には高槻警察署と連携し、島本町駅前・街頭啓発活動を実施。公共機関との協働を通じて、社会規範を遵守し、自ら発信する主体性を養った。

（3）生徒会主催行事の拡充（Seiryō Dream Fes / 球技大会）

昨年度から続く秋の交流行事「集まれ! Seiryō Dream Fes」を、昨年度よりバージョンアップさせて実施。教育活動の成果発表に加え、今年度は地元・島本町の店舗によるキッチンカーを招聘し、縁日形式の企画を導入するなど、昨年度の反省を活かした創意工夫を随所に凝らした。また、高校生徒会主催の球技大会も継続し、企画から当日の進行まで生徒会執行部が完遂した。

〔マネジメントタイム〕

導入から 7 年目を迎えたマネジメントタイム（以下 MT）は、今年度、大きな転換期を迎えた。これまでは平日の「朝」と「放課後」が活動の主軸であったが、今年度より導入された「サタ活」と連動させることで、生徒たちの活動は曜日や時間の枠組みを超えた、より自律的なものへと進化した。

朝の MT では、始業前の時間を有効活用して自主学習やクラブ活動に励む姿が定着している。放課後の MT においては、教員が用意したプログラムに参加するだけでなく、生徒自身が興味・関心に基づいて企画した活動が、平日の放課後やサタ活の中で実施された。

2022 年度からスタートした「MT 5 年計画」の後半戦となる今年度は、単なる「活動時間の提供」に留まらず、生徒が「いつ、どこで、何を学ぶか」を自ら決定し、実行する姿が随所に見られた。このように、MT という枠組みが単なる放課後の時間指定を指す言葉から、生徒一人ひとりの「主体的な行動そのもの」を指す概念へと浸透した 1 年であった。

〈1 学期実施内容〉

- 泥団子
- たけのこ堀り
- 映画鑑賞
- バレーボール
- 砂時計
- ディベート
- 線香花火
- 謎解き
- 桃鉄
- 花アート
- 高 2 スタサプ
- 進路（関大ツアー）
- 七夕
- 英検二次対策
- スーパーボールすくい
- 中学部企画

〈2 学期実施内容〉

- 助動詞
- 高 1 フラッグ
- 高 2 英語試験前
- 校内謎解き
- 島津製作所体験
- 英検二次対策
- 朝読書カフェ
- 英語ディベート
- クッキング
- 喫茶

- 漫画家
- 速く走ろう
- CINEMA
- 人狼
- 救急救命
- クリスマスツリー
- 数学
- 日本史世界史選択
- スピコンサポート
- 高2 英語試験前
- モルック大会
- トランプ
- 裏山清掃をしよう
- 編み物
- 気球
- 〈3 学期実施内容〉
- 紙飛行機
- 高2 志望理由書
- 中学部紅茶
- ピアノ発表会

〔サタ活〕

今年度より、従来の土曜授業の枠組みを撤廃し、生徒自らが学びや活動を選択・デザインする「サタ活」を導入した。これは、与えられた時間を受動的に過ごすのではなく、自分の目標や課題に合わせて時間を「管理・活用」する主体性を育むことを目的としている。

全員参加の「進路探究」や「模試」といった、学年全体で歩調を合わせる時間を核としつつ、自由参加の「サタ活セミナー」や、あえて予定を入れない「余白 day」を設けた。これにより、教科学習の深化を目指す生徒、自習室で黙々と課題に取り組む生徒、あるいは MT 企画などの探究活動に没頭する生徒など、校内の至る所で生徒が「自分で選んだ活動」に主体的に取り組む姿が見られるようになった。

〔読書活動〕

国語科による文章力養成プログラムの一環として、特に中学部においては新聞投書や読書感想文指導を継続している。また、中学部全学年で始業前の「朝読活動」が完全に定着しており、一日の始まりを静寂の中で主体的にスタートさせる基盤となっている。

今年度より、読書活動の推進を「学習支援部（探究学習などを担当）」が担う体制へと移行した。これにより、読書を単なる教養習得に留めず、自ら問いを立てる探究学習の基礎体力として位置づけている。主な活動として、有志による図書委員会と連携した図書通信の発行、おすすめ本の紹介、各種イベントの実施を継続。さらに、読書管理アプリ「ビブリア」の活用を継続し、生徒が自身の読書履歴を可視化することで、

継続的な読書習慣の形成を支援した。

〈具体的な取り組み〉

○通年：ブックトーク（年３回）

○年４回発行：図書通信

○12/16：ブックツアー@京都桂川イオン大垣書店

○1/28・2/16,17：朝読 MT「Cafe Libra」

○3/10：朗読 MT「言ノ葉サロン」（ゲスト：小説紹介系 Youtuber 紙上健吾さん）

【C：Check】

達成状況

学校教育診断アンケートの結果は以下のとおりである。数字は、①「よくあてはまる」・②「ややあてはまる」の２つを合わせたパーセンテージ。

〔生徒の結果〕

- 1「自分自身は、自習室や家庭内などで積極的に学習に取り組んでいる」
- 7「本校に入学して、自主性が向上した」
- 13「自分自身は、部活動・生徒会・委員会活動に積極的に取り組んでいる」

	中学	高 1	高 2	高 3
項目 1	62(72)	60(58)	63(61)	82(87)
項目 7	89(80)	75(79)	76(68)	80(81)
項目 13	65(80)	76(72)	66(62)	66(69)

〈単位：％、()内は昨年度結果〉

〔保護者の結果〕

- 1「お子様は、自習室や家庭内などで積極的に学習に取り組んでいる」
- 7「入学後、お子様の自主性が向上したと感じられる」
- 13「お子様は、部活動・生徒会・委員会活動に積極的に取り組んでいる」

	保護者
項目 1	69(68)
項目 7	77(79)
項目 13	70(64)

〈単位：％、()内は昨年度結果〉

〔教員の結果〕

- 7「本校の教育活動を通じて、生徒の自主性が向上している」
- 12「生徒は、部活動・生徒会・委員会活動に積極的に取り組んでいる」

	教員
項目 7	85(81)
項目 12	87(85)

〈単位：％、()内は昨年度結果〉

（Ⅰ）「サタ活」の定着と自主性の顕著な伸長

生徒アンケートの項目 7（自主性の向上）において、中学部では昨年度の 80% をさらに上回る 89%という極めて高い数値を記録した。また、高校においても高 2 で昨年度比+8 ポイント（76%）、高 3 で 80%と高い水準を維持している。教員アンケートでも同様に「生徒の自主性が向上している」との回答が 85%（昨年度比+4 ポイント）に達しており、土曜日を「自ら選ぶ日」へ転換したことが、生徒の自律的な行動を促す大きなきっかけとなっていることが窺える。

（２）学校行事・委員会活動の活性化と地域連携の成果

項目 12（教員）および項目 13（保護者）の数値において、昨年度を上回る結果が得られた。教員アンケートでは 87%（昨年度比+2 ポイント）、保護者アンケートでは 70%（昨年度比+6 ポイント）の肯定評価を得ている。「Dream Fes」のアップデートや、警察・地域の方々と連携したマナーアップ活動、竹林整備といった「実社会と接する主体的な活動」が、生徒の帰属意識と積極性を高め、それを保護者も家庭での様子から実感していると言える。

（３）学力形成に向けた学習態度の変容

項目 1（学習習慣）については、中学・高 1・高 2 において昨年度を上回る推移を見せている。特に高 3 は 82%と極めて高く、サタ活の「余白 day」やセミナーを自らの受験戦略に合わせて自律的に活用する姿が、最終学年としての高い完成度を示している。保護者の評価（69%：昨年度比+1 ポイント）も微増しており、学校での「自律」の強調が家庭での学習態度にも波及し始めている。

なお、評価指標としての設定はしていないが、目標 1 に関連する「読書活動」（項目 15）について、昨年同様、全項目中、唯一否定的評価が高かったため、あえて取りあげておきたい。

〔生徒の結果〕

15「入学後、読書をする機会が増えた」

	中学	高 1	高 2	高 3	
項目 15	58(72)	21(24)	20(27)	30(19)	〈単位：%、()内は昨年度結果〉

〔保護者の結果〕

15「入学後、お子さまが読書をする機会が増えたと感じられる」

	保護者	
項目 15	20(20)	〈単位：%、()内は昨年度結果〉

〔教員の結果〕

14「本校は、生徒の読書への興味や意欲を高める活動を推進している」

教員

項目 14 84(81) 〈単位：％、()内は昨年度結果〉

(4) 読書活動における意識の乖離と現状

読書活動に関する項目では、教員と生徒・保護者の間で評価が分かれる結果となった。

○教員の視点：項目 14（読書活動の推進）において、昨年度を上回る 84%が肯定的評価を下している。これは、学習支援部への移管や「ビブリア」の活用、図書委員会との連携強化など、学校側が投じた施策への手応えが表れたものと言える。

○生徒・保護者の視点：一方で、項目 15（読書機会の増加）については、中学部で 58%（昨年度比-14 ポイント）、高校各学年でも 20%台に留まっている。特に高 3 のみが昨年度を上回る 30%（昨年度比+11 ポイント）となったが、全体としては「機会の増加」を実感させるまでには至っていない。

※なぜ数値が乖離したのか

中学部における数値の低下は、朝読活動が「定着し、当たり前の日常」となったことで、生徒自身が「新たに機会が増えた」とは感じにくくなっている（＝慣れ）側面があると考えられる。また、サタ活や MT といった「自分の意思で選択する活動」が充実した結果、相対的に「読書」に充てる時間の優先順位が個々の判断に委ねられ、二極化が進んでいる可能性も考えられる。

【A：Action】

改善方策

本年度の成果と課題、および学校教育診断アンケートの結果を踏まえ、次年度は以下の 3 点を柱に、教育活動の更なる深化を図る。

(1) 「サタ活」を核とした自律的学習サイクルの定着

導入 1 年目として大きな成果を上げた「サタ活」については、現行の「学習・行事・探究」の良好なバランスを維持し、次年度も継続する。特に生徒が自ら時間をマネジメントする「余白」の時間を尊重しつつ、中学から高校まで段階的に自律の質を高める指導体制を整える。サタ活と平日放課後の活動（MT）の関連性を教職員間で再定義・整理し、生徒がより目的意識を持って活動を選択できる環境を構築する。

(2) 地域に根差した「青凌ならではの探究学習」の基盤構築

次年度は、本校が位置する地域の特性を活かした独自の探究学習プログラムを構築するための「準備・試行期間」と位置づける。外部の専門機関とも連携し、その知見を積極的に導入することで、生徒が実社会の課題に対して主体的にアプローチできる体制を 1 年かけて整備する。これにより、今年度見られた「地域連携活動」を、単なるイベントから継続的な「学び（探究）」へと昇華させることを目指す。

(3) 「探究のエンジン」としての読書活動の再定義

教員と生徒の間で認識の乖離が見られた読書活動については、学習支援部を中心に「探究学習の基礎能力」としての位置づけを明確にする。単なる習慣とし

ての読書から、自らの問い（探究テーマ）を深めるための情報収集・分析手段としての読書へと転換を図る。図書委員会との連携やアプリの活用を継続しつつ、生徒が「自分のために読む」という実感を持てるような、探究学習と連動した仕掛けづくりを検討する。

重点目標 2 情報モラル教育の推進と更なる ICT 機器活用力の向上

→ 今年度は、生徒 1 人 1 台の iPad 導入から 8 年目を迎え、全校生徒がデバイスを所持・活用する環境が完全に定着して 6 年が経過した。Classi や Google Classroom 等のプラットフォームは、日常的な連絡や課題提出のインフラとして全学年で浸透している。

一方で、SNS をめぐるトラブルの複雑化や生成 AI の急速な普及など、ICT を取り巻く環境は絶えず変化している。そのため、単なる機器操作の習得に留まらず、情報を正しく取捨選択し、倫理観を持って活用する「情報モラル」の育成を、人権教育委員会や生徒指導部・学習支援部と各学年が連携し、最重要課題として継続的に取り組んでいる。

【P：Plan】

評価指標

生徒対象	学校教育診断アンケート	設問番号 2・5・8
保護者対象	学校教育診断アンケート	設問番号 2・5・8
教職員対象	学校教育診断アンケート	設問番号 2・5・8

【D：Do】

取組状況

〔授業等における ICT 活用〕

日々の授業は、教室前方に設置されたプロジェクターを活用し、デジタル教材の配信とノートアプリ（GoodNotes 等）による学習がスタンダードとなっている。一方で、数学の記述指導など、あえて板書と自筆ノートを組み合わせる「デジタルとアナログのベストミックス」も継続し、学習効果の最大化を図っている。

今年度は、これまでの活用状況に加え、以下のような新たな進展が見られた。

（１）表現手段の多様化（Canva の導入と浸透）

従来の Keynote に加え、デザイン・共同編集に優れた「Canva」が校内で急速に浸透した。授業内でのプレゼンテーション資料作成だけでなく、行事のチラシ制作など、生徒・教職員双方がよりクリエイティブな発信を行うツールとして定着し始めている。

（２）生徒の主体的な ICT 環境改善への参画

生徒会主催の「意見交換会」において、生徒から「学習をより効率化するために、特定のアプリを追加導入してほしい」という具体的な要望が上がった。本校では安全性の観点から MDM（モバイルデバイス管理）による制限を行っているが、生徒の「学びを深めたい」という主体的な提案を受け、教育的効果とセキュリティのバランスを考慮した新たな運用ルールの検討を開始した。

（３）校内インフラ・連絡体制の更なる効率化

朝礼連絡や落とし物通知、保護者への文書配信など、Classi やメール配信サー

ビスを軸としたペーパーレス化は完全に定着し、学校生活のあらゆる場面で情報の迅速な共有が行われている。

[情報モラル教育]

情報モラル教育については、人権教育委員会・生徒指導部・学習支援部がそれぞれの役割からアプローチを行い、健全なリテラシーの育成に努めている。

(1) 本校独自の指針「7Rules」の継続運用

中学部においては、本校独自に策定した情報利用の指針「7Rules」を軸とした継続的な指導を展開している。単なる禁止事項の羅列ではなく、日常的に意識すべき規範として定着を図っており、新入生に対する初期指導や「道徳」の時間等を通じて、自律的なデバイス利用の土台作りを行っている。

(2) 各学年・教科における体系的な学習

高校においても、LHRを通じた啓発活動に加え、2年次の必修科目「情報」の授業内で情報モラルや最新のリテラシーについて継続的に学習している。

(3) 専門性を活かした多角的なアプローチ

生徒指導部による利用ルールの再確認、人権教育委員会による心の教育、そして学習支援部による生成AI等の「流行」のトピックへの対応など、各分掌が連携することで、ICT環境の変化に柔軟に対応しつつ、変わらぬ規範意識の醸成を図っている。

〈具体的な取り組み〉

- 4月：高1 LHR 「ICTオリエンテーション」
- 5月：中学 LHR 「iPad利用 7Rules作成」
- 6月：高3 LHR 「SNS利活用時の注意点 啓発ポスター作成」
- 9月：高1 人権 LHR 「SNSと人権に関する出前授業」稲垣昌秋（大阪府行政書士会）
- 11月：中学情報モラル LHR 「インターネット上での人権侵害」
- 1月：高2 人権 LHR 「ヘイトスピーチ、『成人』として」
- 2月：中学 LHR 「7Rules振り返り」「情報モラル LHR」

【C：Check】

達成状況

[生徒の結果]

- 2「本校は、iPadやClassiなどのICTツールを有効的に活用している」
- 5「Classi・メール配信・ホームページなどで学校の情報は適切に伝えられている」
- 8「本校は、情報モラル教育を十分に行っている」

	中学	高1	高2	高3
項目2	92(97)	94(90)	92(90)	90(95)
項目5	92(95)	91(96)	94(89)	94(95)
項目8	85(93)	88(94)	85(84)	87(87)

〈単位：％、()内は昨年度結果〉

[保護者の結果]

- 2「本校は、iPadやClassiなどのICTツールを有効的に活用している」
- 5「Classi・メール配信・ホームページなどで学校の情報は適切に伝えられている」

8「本校は、情報モラル教育を十分に行っている」

保護者

項目 2	95(94)
項目 5	96(96)
項目 8	90(90) 〈単位：％、()内は昨年度結果〉

〔教員の結果〕

- 2「本校は、iPad や Classi などの ICT ツールを有効的に活用している」
- 5「Classi・メール配信・ホームページなどで学校の情報は適切に伝えられている」
- 8「本校は、情報モラル教育を十分に行っている」

教員

項目 2	97(98)
項目 5	100(98)
項目 8	72(72) 〈単位：％、()内は昨年度結果〉

ICT および情報モラルに関するアンケート結果から、読み取れることを以下に挙げる。

(1) ICT 活用の定着と高い信頼性

項目 2 (ICT ツールの有効活用) および項目 5 (適切な情報伝達) において、三者 (生徒・保護者・教員) とともに極めて高い肯定評価を示した。特に教員による項目 5 の肯定率は 100% に達し、保護者からも 96% という高い信頼を得ている。Classi や classroom、メール配信等を用いた「紙に頼らない迅速な情報共有」が、学校運営の基盤として完全に定着していることが確認できる。また、生徒会意見交換会でのアプリ導入要望など、生徒側から活用の幅を広げようとする主体的な動きが見られたことも特筆すべき成果である。

(2) 体系的な情報モラル教育の継続

項目 8 (情報モラル教育) について、生徒 (85～88%) および保護者 (90%) からは高い評価を得ている。4 月の高 1 オリエンテーションから始まり、中学の「7Rules」作成、外部講師による SNS 人権授業 (9 月)、高 3 の啓発ポスター作成 (6 月) など、年間を通じて発達段階に応じた継続的な指導を行った成果と言える。

(3) 認識の乖離と「自律」への課題

一方で、教員の項目 8 に対する評価は 72% に留まり、生徒・保護者の評価と 15 ポイント以上の開きがある。これは、ICT 環境が日常化・高度化する中で、教員側が「今の指導内容だけで、目まぐるしく変わるネット環境や生成 AI 等の新技術に十分対応できているか」という、より高い危機感や責任感を持っていることの表れと分析できる。

【A: Action】

今後の課題

(1) 「不易」のルールの再確認と「流行」への柔軟な対応

中学での「7Rules」のように、生徒が自らルールを「作り、振り返る」プロセス

を重視した指導を継続する。同時に、学習支援部が中心となり、生成 AI の適切な利用ガイドラインの策定や、Canva 等のクリエイティブツールの更なる活用研究を進めることで、「流行」を安全に「学び」に取り入れる体制を強化する。

(2) 生徒主導の ICT 活用環境の整備

生徒会からのアプリ導入要望など、生徒の主体的な ICT 活用意欲を尊重し、MDM 管理の安全性を担保しつつも、より自由度の高い学習環境を構築するためのガイドラインを検討する。

(3) 情報モラル教育のアップデートと教職員間の意識共有

教員アンケートで見られた課題意識を解消するため、単なる「トラブル防止」に留まらない、より高度なリテラシー教育のあり方を検討する。情報担当者だけでなく、全教職員が最新の情報社会の動向（SNS の匿名性や AI の倫理問題等）について共通認識を持ち、学級経営や教科指導の中で多角的・日常的に触れていく体制を目指す。

重点目標 3 協働的・探究的な学びの充実と自律的な行動力の育成

→ 本校の探究活動は、学習支援部が中心となって進めている。総合的な探究の時間を含む探究活動での多様な経験を通じて、自己を理解し、他者と協働しながら地域や社会の課題を見つけ、その解決策を提示できる力の育成を目指している。今年度は、外部専門機関（ISA）との連携による「Global 探究プログラム」を中学部で先行導入した。専門的な知見を取り入れたワークショップや、地域・海外といった多角的な視点での問い立てを通じて、生徒が自らの言葉で未来を語る「ナラティブ」の形成に注力した。また、「サタ活」や「MT」といった自由選択型の活動を数多く設定することで、自分の興味・関心に基づいて活動を選び、自律的に時間を活用しようとする生徒の姿勢を養うための土台作りを行っている。

【P：Plan】

評価指標

生徒対象	学校教育診断アンケート	設問番号 3・9・11
保護者対象	学校教育診断アンケート	設問番号 3・9・11
教職員対象	学校教育診断アンケート	設問番号 3・10

【D：Do】

取組状況

〔探究活動〕

(1) 中学部の取り組み

本年度は、外部専門機関（ISA）の知見を導入した「Global 探究プログラム」を中学部で先行実施し、探究プロセスの質的向上を図った。中学1年次では、探究の基礎となる「問いの作り方」や「データの扱い方」を学び、自らの興味関心を論理的な意見へと昇華させるスキルを習得した。中学2年では、そのスキルを実践へと移し、「島本町の現状分析」を通じて地域課題の解決策を立案・発表する活動を展開した。中学3年においては「オーストラリア研修旅行」を軸に据え、海外で活躍する日本人へのインタビュー等を通じて多角的な視点を獲得。その集大成として1月22日には、自らの原体験と未来の展望を繋ぎ合わせ

た「私のナラティブストーリー」の最終発表を実施し、自己理解と表現力の深化を確認した。

(2) 高校の取り組み

学年の発達段階に応じたプログラムを継続した。高校1年では「インスパイア・ハイ (Inspire High)」を活用し、世界の第一線で活躍する人々の価値観に触れることで、自己の問いを深める体験を積んだ。高校2年では、実社会の企業課題に取り組む「クエストエデュケーション (QUEST)」を実施し、チームによる協働的な課題解決プロセスを実践した。そして高校3年では、これまでの学びを総括する「マイライフ」に取り組み、自身の志向を整理して具体的な進路選択や将来の生き方へと繋げる活動を展開した。これらの活動に加え、新聞プレゼンや英語スピーチコンテスト、行事報告会といった多様な発信の機会を設けることで、アウトプット力の定着を図った。

[自律的な行動力の育成]

生徒指導部・学習支援部・進路指導部が連携し、校訓「自主自律」を具体的な行動へと繋げる支援を強化した。今年度の大きな特徴として、「サタ活」や「MT (マネジメントタイム)」において、生徒が自らの課題や関心に合わせてプログラムを選択し、受講する仕組みを定着させた。これは単なる時間管理の範疇を超え、自らに必要な学びを主体的に決定する「自律」への重要なプロセスとなった。また、警察と連携したマナーアップ活動や、地域店舗を巻き込んだ「Dream Fes」の運営など、実社会との接点を重視した活動を経験させることで、社会的なルールやマナーを自分たちの活動を成立させるための「生きた知恵」として主体的に捉え直す機会とした。さらに進路指導と密に連携し、高2終盤から高3にかけての「志望理由書の構想立案」等を通じて、探究活動で得た気づきを社会の中で自分らしく生きるための具体的なアクションへと昇華させる指導を継続した。

【C: Check】

達成状況

[生徒の結果]

- 3「本校は、協働的・探究的な学びを取り入れた授業や活動が充実している」
- 9「本校に入学して、礼儀やマナーなどの社会性が向上した」
- 11「入学後、自分の意見や考えを表現する力が向上した」

	中学	高1	高2	高3	
項目 3	94(93)	93(93)	90(87)	92(90)	
項目 9	95(88)	83(85)	80(76)	82(82)	
項目 11	91(87)	79(81)	83(78)	86(86)	〈単位：％、()内は昨年度結果〉

[保護者の結果]

- 3「本校は、協働的・探究的な学びを取り入れた授業や活動が充実している」
- 9「入学後、お子さまの礼儀やマナーなどの社会性が向上したと感じられる」
- 11「入学後、お子さまの、自分の意見や考えを表現する力が向上した」

保護者

項目 3	92(90)	
項目 9	76(77)	
項目 11	76(73)	〈単位：％、()内は昨年度結果〉

〔教員の結果〕

- 3「本校は、協働的・探究的な学びを取り入れた授業や活動が充実している」
10「本校は、生徒の、自分の意見や考えを表現する力を向上させている」

教員

項目 3	97(100)	
項目 10	95(92)	〈単位：％、()内は昨年度結果〉

(1) 外部連携による探究の深化と表現力の実感

項目 3（探究的な学びの充実）において、全学年で 90%を超える高い肯定評価を得た。特に、外部専門機関（ISA）を導入した中学部では、表現力の向上（項目 11）が 91%（前年比+4 ポイント）と顕著に伸長した。これは、中 1 から段階的にスキルを積み上げ、中 3 の「ナラティブストーリー」発表へと繋げる体系的な指導が、導入初年度ではありながらも生徒自身の「書ける・話せる」という自信に直結した結果と言える。教員対象の項目 10（表現力向上）においても 95%（前年比+3 ポイント）と極めて高い数値を示しており、アウトプットの質の高まりを学校全体で共有できている。

(2) 社会性・自律性の育み

中学部の項目 9（社会性・マナー）が 95%（前年比+7 ポイント）と大幅に上昇した。地域課題の分析やオーストラリア研修旅行に関連した探究を通じ、社会との接点を意識する機会が増えたことが、単なる「校則遵守」を超えた「社会の一員としての規範意識」を育んだと分析できる。高校生においても、サタ活等での「自律的な選択」の場を設けたことが、各項目の安定した肯定評価に寄与している。

(3) 認識の差異と家庭との共有

保護者の項目 9・11 は共に 76%に留まっており、学校・生徒側の実感と 20 ポイント近い乖離が見られる。学校内での「表現」や「社会的な成長」の機会が、まだ家庭から見える形での「成果」として十分に伝わりきっていない点が課題として浮かび上がった。

【A：Action】

今後の課題

(1) 中学の成功モデルを活かした「青凌流探究」の構築

中学部で成果を上げた外部連携プログラムをベースに、次年度は高校も含めた全校的な探究プログラムの構築に着手する。特に、島本町という地域に根差したフィールドワークや、ナラティブストーリーのような「自己と社会を繋ぐ発表機会」をさらに充実させ、本校独自の「地域に開かれた探究」を具現化する。

(2) 自律的な行動を支える「選択の余白」の維持と整理

サタ活や MT における自由選択の機会は、生徒の主体性を育む核となっている。次年度も「学習・行事・探究」のバランスと「余白」を意識しつつ、生徒会意見交換会での要望なども柔軟に取り入れ、生徒がより主導的に学校生活をデザインできる環境を整備する。

(3) 成長の可視化と家庭への発信強化

学校内でのプレゼンテーションや論文等の成果、および生徒が自律的に活動する様子を、Classi やホームページ、あるいは学級懇談会や授業見学の機会などを通じて積極的に可視化する。生徒の「内面的な成長」や「表現力の向上」を保護者と共有することで、三者が一体となった教育支援体制を目指す。

以上

第 1 回実施日時：2026 年 3 月 5 日（木）10:00～

- ・ 学校長より、本校の教育活動とアンケート結果について報告
- ・ 質疑応答・ご意見

①全体的な印象について

自主自律という目標達成のために、多面的な取り組みをしているという印象を受けた。

②行事について

●三大多行事は、生徒が主体的に行事に関わることで自主自律を促している印象を受けた。そのこともあり、肯定的な評価が極めて高く（90%台後半）なっていることに驚いた。

●中学3年生の海外研修は6泊という長期間の滞在ということもあり非常に良い取り組みだと思う。この行事は全員が参加するものか？

→全員です。ただし、体調不良の生徒など、例年1～2名の欠席はある。

③サタ活と MT について

●授業のように固定されたものでなく、自分でスケジューリングできるところが生徒の意欲喚起につながり、自主自律の精神を育てていると思う。

●教員は、その日の生徒登校数を事前に知れるのか？

→事前に classi でアンケート調査するので人数は把握している。

●教職員の負担についてはどう変化したか？

→サタ活の導入により、土曜日は授業や朝礼終礼がないことが多くなったので、比較的まとまった時間を取ることができるようになった。もともと、大阪青凌では、曜日別の週休2日にしているため土曜日は出勤日になっている。そのため、まとまった仕事ができると教員からも評判は良い。

④竹林整備の取り組みについて

地元を大事にしているという良い印象を受ける。

⑤登校マナー向上の指導について

●大変良いものだと思う。

→とはいえ、まだまだ登下校マナーについて、地域住民からのお叱りを受けることもある。道に広がっていることやコンビニに溜まってしまっているところなど、今後も改善のために指導していく。

⑥MTの取り組みについて

たくさんあり、楽しそうなものも多いと感じた。スーパーボールすくいや校内謎解きなど、勉強以外の内容もあるのが良い。不登校傾向の生徒など、なかなか教室に気持ちが向かない場合も、こういう楽しい取り組みに参加することで学校とつながっているという意識を持つことができると感じた。

⑦読書活動について

●読書はどこの学校でも共通の課題。本の重要性もあるので継続した努力が必要だと感じている。

●読書アプリのビブリアなど様々な取り組みがされており素晴らしい。

●保護者が参加するような取り組みや、本を介した子どもとの会話が生まれるような仕掛けをするのも良いのではないかな。

→ぜひ、前向きに検討したい。

⑧情報モラル教育について

●教員も危機感を持ってかなり力を入れている様子がわかった。

●情報モラル教育はやってはいてもなかなか生徒には浸透しないものだと思う。計画的に進められており感心した。

●『CANVA』などを使った生徒の発表も多くあるようで素晴らしいと思う。

●7 Rulesは生徒自身が作成するのか？

→毎年、新入生のために中学2年生が考えるもの。

●家庭のルールについては学校で決めているか？

→できるだけルールを決めてほしいというだけにとどまっている。

●スマホの持ち込みは可能か？

→可能だが、校内では電源は切って鍵のかかる個人ロッカーに入れることとしている。

⑨中学の探究活動について

●島本町以外の地域の生徒が島本町について考えているという点が良いと思う。

→一方で、地元住民でないから細かなところで実感がわからない部分があるということが課題。もっと、島本のことを知る必要があると考えている。

⑩最後に

島本町にある唯一の高等学校として、期待している。

第 2 回実施日時：2026 年 3 月 14 日（土）13:00～

- ・ 学校長より、本校の教育活動とアンケート結果について報告
- ・ 質疑応答・ご意見

①読書活動について

- 学校で様々な取り組みをしてもらっているが、なかなか生徒の読書につながらない。
- 漫画ではなく、活字に触れてほしい。
- ビブリオバトルは有志でおこなっているとのことだが、クラス代表が参加するなど、違う形も取り入れることで、盛り上げてほしい。
- スマホの影響で、大人も本を読まなくなった。このままでは、文章力が育たない。家庭での指導も意識しつつ、学校でも引き続き指導してほしい。

②A I について

A I の急速な普及により、子どもたちが、安易な方向に流れないか心配である。今後、A I との付き合い方を指導してほしい。

③進路指導について

- 説明会等で進路情報は提供してもらえらるが、親として、更に詳しく聞きたい時にどうすればよいかわからない。個別に質問できるツールがあるとうれしい。
- 先生によって指導に違いがあるのではないか？
→ 学校としての方針は以前から変わっていない。ただ、教員間で差があるというご指摘は、学校としてしっかり受け止めたい。
- 次年度から始まる「S－L A B（放課後学習センター）」はどのようなものか。
→ 現在、仮申し込みした生徒の 6 割程度しか参加していない。4 月から本格始動した際には、教室長と学校が連携し、参加生徒への手厚い指導をおこなっていく。

④模試について

- 子どもの立ち位置を知るために、ベネッセの模試だけでなく、他の模試も受けさせたかった。年度当初に、詳細な模試一覧があれば、もう少し親としてできることがあるように思う。
- 他の保護者からどのような質問が寄せられているかを共有できると、受験生の親として参考にすることができると思う。

⑤地域交流について

●過疎化や少子化が進み、普段、幅広い交流ができないので、学校での地域交流はとても貴重である。地元の方のお話を聞くなど、今後、積極的に活動の幅を広げてほしい。

●地域の方と接する機会はないのか？

→現在、登下校指導のサポートを、地元のシルバー人材センターに依頼している。また、11月には「Seiryō Dream Fes」をおこない、地元の方を学校にお招きした。更には、12月におこなわれた「しまもとミニマラソン大会」に、30名を超える生徒が、ボランティアスタッフとして参加した。

⑥MT・部活動について

●MTの取り組みには制限があるので、部活動に昇格する流れも整えてほしい。

以上